

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071101473		
法人名	のみやま 有限会社		
事業所名	グループホーム おさ (2階)		
所在地	〒811-1313 福岡県福岡市南区日佐3丁目40番30号 Tel 092-588-5611		
自己評価作成日	平成30年06月25日	評価結果確定日	平成30年09月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	平成30年08月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一緒にいる喜びを感じられる家庭～地域、社会、スタッフ共に住む同志として～を理念に「その人らしい」を大切に生活支援、自立支援を行っています。年間行事を立て{～したい、～行きたい、～食べたい}等の多様な要望を出来る限り実現出来る様、日々試行錯誤しながら取り組んでいます。また外出支援、野外食など月1回の行事にも力を入れ活気ある生活支援を心がけています。地域密着サービスとしての活動、地域役員、民生委員、住民、校区事業所と協力し、徘徊ネットワークを立ち上げにも参加しました。また、地域カフェ活動への協力、参加し、地域行事への積極的な参加を行い地域の方々とのふれあいを大事にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一緒にいる喜びを感じられる家庭」～地域、社会、スタッフ共に住む同志として～を理念に地域の方々と交流を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事、地域カフェ等への参加し、情報交換を行っている。また、近隣の中学校の職場体験の受け入れ等地域交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域認知症の方を取り巻く連携作りの参加やホームでの相談を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議を年6回開催し、ホームの状況、活動、支援などの取り組みを報告し参加者の方より意見を求め、サービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議への参加を求め、事業所の実情や支援、業務全般において担当者に意見、アドバイスを頂いているが、問題等があった場合にその都度確認してアドバイスを頂いている。出前講座での勉強会を開催協力を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の設置し、外部研修から内部研修への落とし込みを図り、全職員が身体拘束をしないケアの周知し、カンファ、ミーティングを行い身体拘束をしないケアに取り組むようになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修からの内部研修への落とし込みを図り、知識の向上、理解を深める為に合同会議で職員全員で周知し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている入居者が居る為、活動支援出来ている。また、外部研修、内部研修で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に基付き、契約内容について詳しく説明を行っているが、解らないことなどが有った場合などその都度、説明させて頂いている。変更等が生じた場合は、速やかに書面、対面での説明をおこなって理解して頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議や面会時に御家族様の意見、要望を頂き家族会で報告し運営に反映させている。意見箱を設け、いつでも意見や要望を承っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、各フロア一会議等で職員各自の意見を聞く場を設けている。話しやすい職場作りに努めている。個々の意見、要望等があればその都度、時間を設け反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々のスキルアップの為に資格取得に支援体制をとっている。休み希望、有給希望を毎月聞きながら働きやすい勤務作りに努めるようにしている。自己評価を行い、向上心をもって働けるような体制作りに努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年齢、資格に囚われず、仕事に対する姿勢や、人柄、思い等を優先し、個々の個性、能力を発揮できるような職場作り、働くことにより社会参加の喜びを感じて貰える様、権利が十分に保証できるよう努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育、啓発活動の外部研修に積極的に参加し、内部研修に落とし込みを図り、人権問題、啓発活動に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理職、リーダー職、介護職全てにおいて研修を受けることができる様な体制、職場に於いても新人教育を働きながら見につくような指導を進めて行くよう体制をとっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設等運営会議とうに参加したり招いたりして連携を図っている。また意見の交換を行い質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面会やCM、SWとの情報交換を行いながら今までの本人様のご様子や不安、要望を伺い安心して生活できるよう密に連絡を取り合いながらより良い関係作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の相談、要望、御家族様の思いを聞きながら、より良い生活が出来る様、安心して暮らせるようにしっかりと傾聴し良い関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談、御家族の思いや要望を聞きながら、本人様の今のニーズを見極めサービスの向上に対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様と生活を共にして行く上で悲しみや喜びを共有し「一緒にいる喜びを感じられる家庭」、共に暮らす同志としての理念を心がけ信頼関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信や、面会時に生活状況や健康状態、心身状態等の報告を行い日々の様子を伝えている。緊急の場合とうは速やかに御家族様に連絡を取り、ご協力を募って共に支える支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族と一緒に外出、外泊、外食が出来る様に御家族様へ提言している。また、知人、友人様が面会に来られた際には、気兼ねなく過ごせる様な空間を提供することで、長年築いてきた関係を継続出来る様支援している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物畳みや洗濯物干し等、出来る範囲のお手伝いを複数の利用者にお声がけし、スタッフが介入することで、自然にコミュニケーションが取れる様支援している。お互い声掛けしあい助け合えるような、関係を構築できるような支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、転院、他施設への移動の際など、細やかな情報提供を行いスムーズに新しい生活に馴染める様な支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で会話を密に行い、希望や想いを把握出来る様に努めている。御家族様からの情報や自分で想いを伝えられない方は、表情等を元に検討している。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人、御家族、主治医から話を聞きフェイスシートを活用することで、情報を共有している。情報や本人様の意向を元に安心、安全、穏やかな生活が出来るように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人に合わせた生活リズムや心身状況を把握し意欲向上、本人様の能力を発揮出来る様な支援に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、御家族様の意向を確認し、計画に反映させている。本人様の状況変化に合わせて介護計画を見直しする様、カンファレンスでの情報共有、モニタリングを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別ケア、排泄、食事、入浴、日常生活の状況や言動、心身の状態等を毎日記録し、申し送りを行っている。1カ月1回の検討、見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や御家族様の状況に応じて、医療機関への付き添い、介護タクシーの予約、外出時の支援、緊急時の付き添い支援など出来る限り柔軟に対応できるように取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーへの買物、地域活動への参加、訪問パン屋さんでの買物、個人での外出支援等、豊かな生活が出来る様多様な支援が出来る様努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、御家族様の要望を受け入れ、かかりつけの医療機関に受診できるような支援を図っている。又、御家族様の状況によって職員が同行支援を行い、安心して医療を受けられる体制をとっている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医、看護師に日々の生活の中での気づきを重要視し、24時間体制で日々報告、連絡、相談を行い適切な対応指示を受け受診等が速やかに出来る様な体制を整えている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居様が入院された際には、退院してからの生活を継続して希望される場合、カンファレンスへの参加し戻ってきたからの変わらない支援を行う為の環境整備や、職員への周知を行い早期退院に向けてのSWとの連絡を取り関係性を深めている。又、退院後の注意点、留意点などの助言を頂いている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に入った場合に備え、御家族様の思いや考えを入居時に話し合っています。早い段階でのホームで出来る事、続けられる事、限界点の説明を行っています。主治医、訪問看護の連携等にて看取り支援の取り組みを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の研修に参加し、職員全員への周知の為内部研修での落とし込みを図っています。又、緊急時に備えADE、人形を使っての講義や実践を訓練を行っています。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様、地域の方々、隣接の施設での避難訓練を年2回実施している。消防署の査察を含め誘導、早期対処法、消火器の使用法などの指導のもと協力体制の構築に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の個々の人格、性格等を尊重し声掛け、対応を行うように心がけている。恥ずかしいと思われるような声かけをしない、排泄面では、他入居者に配慮し寄り添って声かけを行う様配慮している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人様の意思を尊重しながら、支援に努めている。選択肢を設け自己決定できるような、言葉掛けをする働きかけを行うように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な業務は決まっているが、その通りではない。自己決定をして頂き、思いを視聴しながら、その日の体調、気分等を考慮し、本人様の希望に添える様な支援に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時、行事等身だしなみに気を配っているが、基本的には御本人様に選んで頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の食事担当者が希望を伺ったり、外食支援も行っている。食事の準備、片付けは中々難しくなっているが、テーブルを食前、食後に拭いて頂いている。皆で顔を見合わせて楽しく食事が出来る様なテーブル配置をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分の確認、一日を通して個人個人でバランス良く確保できるように気を配り、個人に合わせた食事形態を話し合いながら支援に繋げている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯の洗浄を行い毎月歯科医師、衛生士からの助言、指導を受け個人に合わせた口腔内ケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人様のペースで排泄支援は行なっているが、排泄の感覚が無い方々は、排泄パターンを活かしてトイレ誘導を行って不快の緩和に努め、使用枚数の削減に努めている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策は、難しい。飲食の工夫、体操、運動等を取り入れてはいる。排便コントロールとして、主治医に相談し、服薬の処方も行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、いつでも希望が有れば入浴出来る様にはなっている。毎日の個人の希望を聞きいれながら支援に努めてはいるが、清潔面、感染面からするとその通りではない日もある。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人様のペースに基本は合わせて、休息、睡眠をとって頂いている。又、安心して気持ちよく眠れるように室内の環境、寝具調整、室温調整も行なっている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイル活用し、個々の服薬が何時でも確認出来るようにしている。薬の変更や、追加等が生じた場合でも申し送りで周知するようにしている。月2回の薬剤師の訪問時に相談、助言を頂いて入居者様の変化に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いのある生活を送って頂けるよう、役割を持って手伝い等も積極的にして頂いている。おやつ等でのし好品の提供や、個人的な外出支援や散歩で気分転換を図って頂けるような支援に努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望等があれば散歩や個人外出の支援をしている。年間行事を通して、日帰り小旅行等を計画して、家族とも協力して外出支援に努めている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本ホームの方で行なっているが、買物等で必要な場合は、所持して頂き使える支援を行っている。数名は、個人で管理して、使えるようにしている。御家族様の同意のもとで行なっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望、御家族様要望があれば、何時でも何回でも出来る支援をしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせる様に、季節感を感じる明るい空間作りに努めている。共同空間、居室は環境整備に努め不快感なく過ごせるようにしている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、食事時のテーブル配置など気の合った仲間と会話や、テレビ観賞、DVD鑑賞できるように心掛けている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具や寝具などを使用し、安心して居心地よく生活出来るようにしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室、トイレ等大きな文字で認識できるように解りやすくしている。又、手すりなど夜間でも確認しやすいように蛍光テープを貼ったりして工夫をして自立支援に努めている。		